

郷土の自慢と誇り 久々利ふるさとマップ

久々利の多様な自然

サクライソウ



可見市で最も高い浅間山(標高372m)を中心とした丘陵地は、シイ・アラカシ・コナラ・アベマキなどの自然林が分布し、サクライソウやギフチョウを代表する多様な動植物を育てています。また、所々に見られる湧水湿地には、東海丘陵要素植物のトウカイコムセンゴケやハッチョウトンボなど希少生物も密やかに生息しています。

久々利の浅間山の雑木林に自生する腐生植物で、背丈8~20cm程の小さな淡黄色のユリ科に属する植物です。葉緑素がないため光合成ができません。したがって、腐葉土から栄養をとっています。6~7月ごろ茎と同色の直径2~3mmの小さな花をいくつか咲かせます。サクライソウという名は、1903年(明治36年)恵那山麓で標本を採集された桜井半三郎の姓をとって命名されました。久々利の浅間山自生地は、1914年(大正3年)久々利出身の加藤新市によって発見されました。サクライソウは極めて限られた場所に自生し珍しい植物であると同時に、その形態が他の植物と異なることから、世界的にも稀とされ、我が国では、久々利のサクライソウ自生地のみが国の天然記念物に指定されています。現在、久々利を含め各地のサクライソウ自生地は、環境の変化により、絶滅が危惧されています。サクライソウをはじめ、大切な久々利の自然を後世に伝えていきたいのです。

シデコスシ



モクレン科の低木落葉樹で湿地に生育しています。春先に美しい白から薄桃色の花を咲かせます。コフシに比べ花弁は細く枚数も多いのが特徴です。シデは神事に使用する紙垂(して)と似た花弁が由来です。分布は愛知県東部から岐阜県の東濃地方に生育しています。東海丘陵要素植物の一つです。

アサギマダラ



旅をすることで知られるアサギマダラはアゲハチョウほどの大きさで、ステンドグラスを思わせる茶色と浅黄色を基調としたマダラ模様の翅を持つ大変美しい蝶です。特に秋空をバックにゆるやかに滑空する姿を目にしたとき、その優雅な舞に感動し、心が洗われます。秋、どこから飛んでくるのか、久々利でもその美しい姿を観察することが出来ます。

ギフチョウ



アゲハチョウのなかまで、年に一度早春の雑木林に現れます。成虫はカタクリやミツバツツジの花から蜜を吸い、メスはカンアオイの葉面に卵を産みます。ふ化した幼虫はその葉を食べながらサナギになります。ギフチョウの名前の由来は、岐阜県下呂市金山町で最初に発見されたためギフチョウと命名されました。

サンコウチョウ



三光鳥と書きます。鳴き声が「月日星ホイホイ〜」と聞こえることからその名がつけられました。毎年初夏、南方より渡ってきてきて兼作りから子育てをします。子どもが一人前になる秋にまた南方へ帰って行きます。久々利では小淵たぬ池上流の沢沿いに見られます。雌雄ともスズメほどの大きさですが、目の周りが水色でとてもきれいなこと、雄の尾がとても長いことが特徴です。

久々利に見られる植物



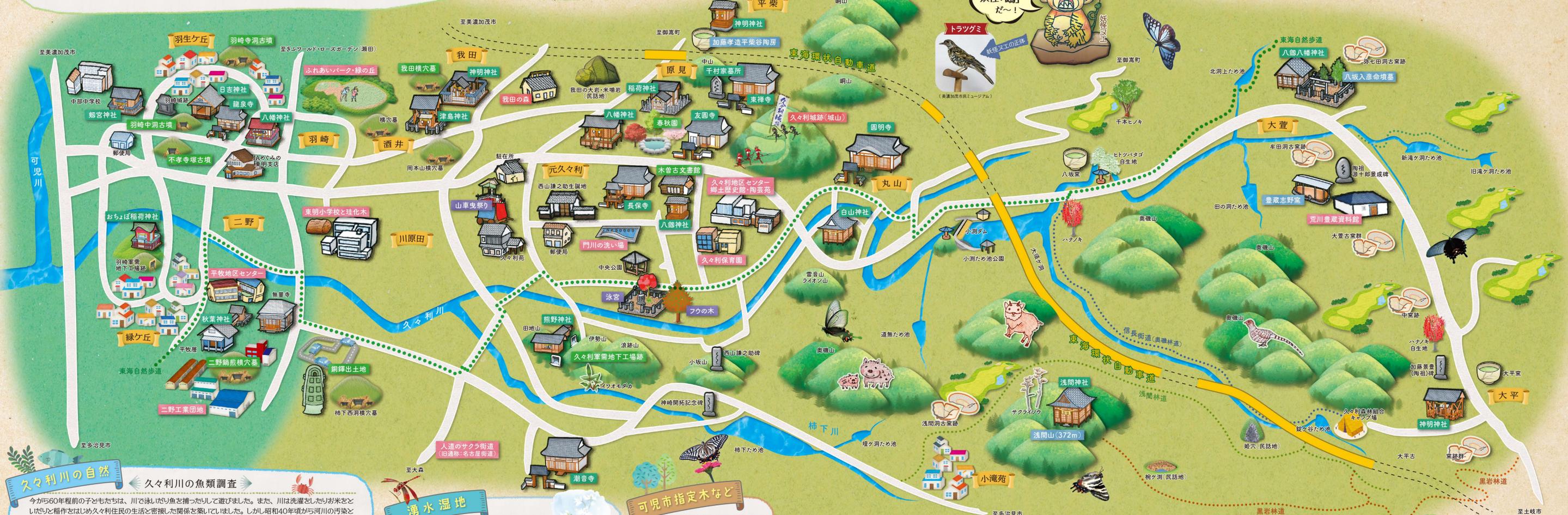
中山間地である久々利の地形は、植物にとって多様な生息環境をもたらしています。特に浅間山を中心とした自然林には太古の時代からその生命を顧みずと今に伝わる様々な植物が見られます。サクライソウをはじめ東海丘陵要素植物など希少な植物も生息しています。

久々利に見られる蝶



森の妖精ゼフィルス(ミドリジギス類)

コナラ、アベマキを中心とした自然林にはゼフィルスと呼ばれるジシジキチョウが生息しています。日本には25種類以上とされていますが、久々利ではそのうち9種類の生息が確認されています。多くはブナ科のコナラやアベマキなどを食べます。5月から初夏にかけて見ることができます。



久々利川の自然

久々利川の魚類調査

今から60年程前の子どもたちは、川で泳いだり魚を捕ったりして遊びました。また、川は洗濯したりお米をこいだり種作をはじめ久々利住民の生活と密接した関係を持ってきました。しかし昭和40年頃河川の汚染と共にそれらの関係は薄れ川魚の姿も急速に見られなくなりました。最近になって徐々に水質も改善され、以前より魚の姿を見る機会が増えたようです。そこで、2023年の夏に岐阜大学・向井先生のご協力を得て久々利川の生物調査を実施し、以下の生物の生息を確認しました。(調査場所:丸山薬師洞、丸山久々利川本流、大萱久々利川本流)



湧水湿地

久々利周辺の丘陵地には、硬い岩盤や粘土層が不透水層となり地表に水がしみ出している湧水湿地が点在しています。その湿地は特有な環境を保持しているハッチョウトンボやサナギなどを始め希少な生物が生息し独特な生態系をつくらせています。モウセンゴケのなかまは葉の表面の毛先から粘液を出し、小さな虫をどろどろで消化吸収します。このような植物を食虫植物とし、赤い花をつけるトウカイコムセンゴケは東海丘陵要素植物の一つです。



可見市指定木など

久々利市内の東海自然歩道沿いに、3種の市指定木(市指定天然記念物)をみることができます。また、指定木以外でも珍しい千本ヒノキが生息しています。



久々利の地質

美濃帯と呼ばれる中古生層の硬いチャート・砂岩・頁岩がらなりこの辺り一帯の基礎をなしています。その裾野には上部に堆積した新生代中新世の平牧層(サハ)、更にその上に鮮新世砂礫層が広く覆い現世の侵食を受けて丘陵を形成しています。所々に中生代の火成岩類の貫入岩体も見られます。平牧層がら木の葉・大型哺乳類の化石が、鮮新世の礫層中には桃山陶の原料となった粘土や頁岩(褐鉄鉱)などが見られます。



久々利に見られる鳥

浅間山に連なる山々と流れ出る久々利川や一帯に広がる田園には、色とりどりの自生する鳥や渡り鳥が飛来します。

